

あれから40年

JJ1SXA/池

アマチュア無線の国試を初めて受験したのは、1976年(昭和51年)10月のことだった、当時勤務していた会社で、講習会を受けてアマチュア無線の資格を取った者が何人かいて、アマチュア無線の話題で盛り上がっていた。

私も若い頃に一寸興味を持ったが、その後仕事に追われる毎日で、そんなことは頭の隅にも無いような状態だったが、今は、電話級、電信級という資格も増え、講習会を受けて修了試験に合格すれば簡単に資格が取れるということを知った、また、国試受験なら1日で済むとも教えられた、と同時に国試はほとんど既出問題であること、問題集も市販されていることも教えられた、そして曰く、「池さんはもう歳だから」、国試受験では無理だろうから、講習会を受けた方が良いとも言われた、だが、当時の講習会は、今と違って何日も通わなければならない多忙でそんな余裕は無かった、余計な勉強などしなくても問題集丸暗記で合格できるなら、それでいこうと決めた、そこで「歳だから」と馬鹿にされたのはどうも癪に触る、ならば電信級も同時受験して驚かせてやろうと反骨の心が、後先考えずに持ち上がる、願書を出したのが、受付締め切りの2日前、試験本番は1か月後だ、問題集1冊と、欧文モールスマスター法のテープを購入、一緒に電話級を受験するSXBに問題集を渡し、こちらはモールの勉強だ、通勤モービルの車内が主な勉強場所、片道25km、約1時間、往復で約2時間、だがそんなに一度に長時間かけても簡単に進歩するわけでは無い、約1週間経った頃、SXBの口からエミッターだのコレクターだのという言葉が出て愕然とする、トランジスターの知識が全く無いことに気付いた、慌てて問題集をもう1冊購入し目を通す、勉強などと言える状態では無い、あたふたしている内にあつという間に試験当日を迎える、試験問題はどんなものが出たかは全く記憶に無い、数日後には電信級の試験、CWの受信では、第1字目は、「P」だったがどうしても、ト・ツウ・ツウ・トが「P」というのが浮かばない、ト・ツウ・ツウ・トは何だ何だと考えながら、そのまま試験は終了、どんな文章だったのか覚えていないが、2字目以降は全部筆記できたので何とかあったなという自信はあった、引き続き送信試験、途中で出てきた「M」がちゃんと打てなかったが、構わず最後まで打ったら、試験官に「M」を打ってみると言われた、やはり試験官は聞き逃さないのだと感心する(当たり前だ hi)、今度はちゃんと打ったら、試験官にちゃんと打てるのだから、訂正符号で打ち直すようにしなさいと指導された、そんなこんなだったが、無事、電話級、電信級共に合格だった、あれから40年経ったのだと思うと感慨深い、そこから無線人生が始まった、21MHzCWでDXCCを追いかけたり、7MHzで和文CWをやったり、SSTV、eQSO、Wires、echolink、APRS、JT65、リモートシャック等々(苦労話は2003年～の240誌に)、何にでも手を出したが、何と言っても240SSBモービルで、大勢の仲間と楽しく過ごせたことは幸せだった、現在は240のロールコールと50MHzCWコンテストのみの細々運用、KWリニアが泣いているのが現況、かつてのチャレンジ精神は何処へやらです hi